

共に生きるを考える授業

11月5日、杉並区立杉並第七小学校では、「共に生きるを考える」をテーマに授業が行われました。この授業の講師を務めたのは、口と足で描く芸術家協会の古小路浩典（こしょうじひろのり・52歳）さんです。古小路さんは、小学生たちに「いろいろなことにチャレンジして、何かこれだけは誰にも負けないというものと巡り合ってほしい」と話していました。

この日、杉並第七小学校では、4年生50名を対象に、共に生きるを考える授業を行いました。目的は、様々なハンデを乗り越えて頑張っている人を知り、すべての人が共に生きる社会を作っていくことで、学校から古小路さんに協力を要請し、この授業が実現しました。

古小路さんは、中学3年の時に器械体操の練習中に、首の骨を折る事故に遭い、それが原因で肩から下が麻痺してしまいました。運動が好きで器械体操に熱中していた中学生が、事故で突然何もできない、まるで赤ちゃんのようになってしまい、この先自分には何も良いことがないのではないかと悩む日が続いたそうです。そんなある日、自分と同じように手足に障害のある人が、素晴らしい絵を描いていることを知り、強い憧れを感じたそうです。そして、協会の門をたたき、最初はうまく描くことはできなかったけれど、協会のメンバーや家族に励まされて頑張ることができたと話しました。絵の腕前も上達し、絵を描くことで生活ができるようになりました。しかし、経済的な自立はできても、食事をする箸やスプーンを持つことができず、多くの人々の支援や助けがあって生活しています。このことは、何も障害者だけでなく、みんなに言えることで家族や周りの人の助け合いで社会が成り立っていること、そのことに感謝の気持ちが大切とも話しました。

古小路さんは、口に絵筆を咥えて絵を描きます。実際に、小学生たちの前で絵を描く姿を披露すると、子どもたちからは驚きの声が上がりました。古小路さんは、「子どもたちには、いろいろなものにチャレンジして、その中から何でもよいので、これだけは誰にも負けないものを見つけ出せば、途中で投げ出したり、あきらめたりせずに最後まで頑張れると思います」と話していました。



【報道機関 問い合わせ先】

杉並第七小学校：電話 3392-6328